

# 令和4年(2022年) 学校評価報告書

領域	評価の観点	評価項目	重点目標	取組状況・成果	課題	評価
学校運営	教育方針	可能性に挑戦するために必要な力(確かな学力・豊かな心・健やかな体)を育成	授業力の計画・工夫、学校行事、部活動、キャリア教育の活用	やる気になる授業、工夫された授業の実施、授業時間の確保、行事の意義、健康な身心を作る部活動等の視点から検証した。	入学者の感性も社会状況・時代背景によって変わっている中で、時代の変化に応じた対応を行う	2.8
		主体的に学習に取り組む態度を育成	正課の授業、探究活動、アクティブラーニング型授業を通じた育成	正課の授業を通じて基礎学力の定着を図り、探究活動の浸透で双方向的な授業が成立している。これにより主体的に思考力・判断力・表現力等が育成されている。	生徒が自ら考えて行動して取り組む環境に馴染ませることが必要	3.2
		高い語学力、数理解能力及び情報活用能力の育成	英語教育、理数教育、ICT教育の充実	ネイティブによる英会話授業、オンライン英語会話の実施で語学教育を推進。多数の実験観察の実施で理数教育も推進している。	理数重点化に伴い、さらに理数教育、情報教育を推進する	3.2
		主体的に変化に対応しつつ、自ら問題の発見・解決に取り組む力の育成	特別講座・演習授業、探究活動の充実	探究活動を通じて主体的に取り組む姿勢、課題解決に向けて考える力、協働する力を持つ生徒が増えている。	主体的に対応できない生徒に対する方策の研究	3.2
		他者を尊敬し、他者と協力して物事を達成する態度と能力の育成	HR活動、学校行事、部活動、道徳教育の充実	全教員で道徳教育を実施するなど、他者理解、チームワーク、コミュニケーション力等を磨く教育は推進できた。	他者理解、団体行動、チームワークの大切さを更に道徳教育の推進によって向上させる	3.3
		異文化理解の精神等を身につけてグローバルに活躍する力の育成	学校行事、茶華道、国際理解の充実	異文化理解を身につけた人材育成のために、座学のみでなく学校行事やさまざまな研修を実施。コロナが少し収まった時点で海外研修も実施できた。	伝統・文化の継続伝承を、今の時代・これからの社会に如何に生かすかを検討する	2.8
学校運営	教育目標	学力の育成	教員の授業力、教科指導の向上	学力差の大きい生徒への対応として、教材・指導法の改善に努めた。模試の成績等、数値による成果が徐々に現れている。	コースの特長を踏まえた授業の深度、進度について、さらに工夫する	2.7
		国際力の育成	海外研修、留学制度の再開	海外研修(メルボルン、ニュージーランド)を再開し、生徒へ貴重な経験の機会を提供できた。	海外研修・留学以外で国際力を育成する仕掛けを模索する	3.0
		情報力の育成	ICTリテラシーの育成、教材の活用	ICT教材・アプリ教材を導入し、授業や朝学習などで活用している。	ICT教材・アプリ教材の効果検証を行う	3.3
		人間力の育成	探究活動、部活動、課外活動、人権・道徳教育のさらなる推進	特別活動や部活動等を通して人格形成を行った。中高時代に必要な経験を教育活動を通じて行えた。	学力だけでなく、人間力育成を何によって行っているかを示す必要がある	3.2
学校運営	学校運営方針	広報活動 入学者数の確保	教職員全体での広報活動 広報イベントの積極的展開	ていねいな対応で本校の魅力を伝え、多くの受験生、保護者に本校を知っていただけたが、十分な状況ではない。	多様な用務で多忙な全教員も、協力してもらう形で関わる学校見学会・説明会も本校の魅力を伝える内容を工夫する	2.7
			高校募集の強化	高校入試アドバイザーを起用して中学訪問体制を変えた。	今年度以上に中学校への訪問とPR物の配付を行う	2.2
		学校評価制度の導入	生徒・保護者・第三者のニーズや意見の把握と課題の改善 生徒、保護者の満足度の向上	生徒・保護者・教員のアンケートを実施し分析した。進学実績、生徒対応等を中心に多くの要望が寄せられた。	課題を組織的に改善する体制を敷き、状況を把握し対策を進める。前年度以上の満足度が得られるよう組織的に取り組む	3.2
学校運営	学校運営方針	教育改革の実行	現代社会、近未来の志向を睨み、新コースの検討 新コースの教育内容、教育課程の制度設計の遂行	コースの独自性と特色づくりを推進するため、改革推進会議で検討し、新コースを決定した。 コースの独自性と特色づくりを推進するため、改革推進会議と教育課程委員会合同で検討プランを策定した。	受験生にとってわかりやすいコース改革の広報が必要。	3.0

# 令和4年(2022年) 学校評価報告書

学校運営	学校運営方針	将来構想	5～10年度の社会状況を見据えた本校の進むべき方向性を議論 時代の変化に呼応した新しい教育観（理念・教育方針）の再定義を検討	少子化の加速、本校希望者の減少等の厳しい環境下での本校存続の選択肢の議論を、教職員全員で開始し、危機感をもって対応策を構築している。	歴史・伝統と時代の変化との合致が求められる	2.7
		教職員の意識改革・行動改革	社会動向を理解し、慣例的な行動からの変容	新しいコースに変わるタイミングで教育改革、教育創造に計画的に取り組んだ。	DX化、ICT機器の拡大などの変化には対応できているが、業務内容や教育の変革には慎重である	2.8
課題教育	教務	新学習指導要領改訂に伴う対応	適切な教育課程の編成	制度改革推進会議・教育課程委員会合同会議で作成方針、総単位数、特色教育について検討・策定	コースの目標設定とその実現のためのカリキュラム・ポリシーの提示	3.0
		大学入試対応	共通テスト対策、大学入試対策	共通テストの各教科の分析を行い、職員会議で全教員間の情報共有を行った。	各教科の主導による傾向分析を日常の授業等で活用する	2.7
		アクティブラーニングの実施	探究型・アクティブラーニング型授業の推進	探究については概ね計画通りに進行しているが、アクティブラーニング型授業については、コロナ禍のため計画通りにいかなかった。	本校が先進校として、アクティブラーニング型授業（グループワーク・ディスカッション等）を推進する	2.7
	国際	国際教育・グローバル教育	留学制度・海外研修プログラム 海外提携校との連携強化	国際コース1期生の大学進学実績からコースのミッションはある程度達成できた。研修プログラムはコロナ禍で停止していたため、今年度は検証不可能である。 コロナ禍においても海外提携校との連携も強化できた。	海外研修プログラムの検証は再開後に実施。またコース改編後の研修プログラムのあり方を定める	3.3
		海外提携校との連携強化	コロナ禍においても中国・韓国を中心に協定校、連携校を増やす	中国・韓国を中心に協定校、連携校を増やした。英語を軸とした交流、文化についての相互理解等、オンラインを活用して交流を進めることができた。	オンラインを通じての交流、生徒の受け入れも推進する	2.8
	情報	高度情報化への対応	タブレットを活用した授業、課題配信等の推進	タブレットの活用は進んでいる。	現在のアプリの効果検証を行い、効果的なアプリを研究する	3.3
	進路	学力向上	Sコースの習熟度別少人数教育の推進	Sa/Sbと成績に応じた授業を展開し、生徒の成績向上も確認できた。	各クラスのモチベーションの維持が重要になる	3.2
		学習支援	予備校連携「ハイレベル講座」「親和ゼミ」の活用推進による受験力の養成	難関大合格レベルの応用力を身につけるために予備校と学校が連携し特別授業を実施。	学校と予備校が協力して講座をつくりあげるという意識と、積極的に活用するという教員の理解が必要	2.3
		学習支援	放課後自習時間の延長、質問対応の実施、補習の実施による学力の底上げ推進	対応できた。さらに、学校で勉強するスタイルを定着させる。	多様な用務を整理して全教員で対応する	2.5
		中学校段階でのキャリア教育	6年間の指導計画、学年ごとの指導計画の設定	学年ごとに意識し、指導計画を設定した。	6年間の進路マップを示し、さらに自分の将来を考えさせる意識づけが必要	2.7
受験対策		進路指導体制（相談・指導）	担任レベル、個人レベルでの対応が中心とし、進路指導部の情報提供によってサポートした。	進学相談できる体制を組織的に整備する。相談を受ける側として必要な知識を習得する	2.7	
課題教育	生徒部	部活動	学業と部活動のバランス	ノークラブデー週2日を軸に調整した。	放課後・土曜日の活用とともに部活動の活動とのバランスを見直す	3.0
			部活動活動方針に基づく活動	強化クラブとそれ以外のクラブとの差異化は必要であるため、練習時間、休養日の設定について、ルール化した	強化クラブの特性・特例を明確に示すよう強化クラブ運営委員会で取りまとめる必要がある	2.5

達成度の評価：A…よくできた B…できた C…あまりできなかった D…できなかった

A=4 B=3 C=2 D=1 で点数化

保護者の皆様

親和中学校・親和女子高等学校  
学校長 中村 晶平

## 「学校評価アンケート（保護者）」結果と改善に向けた学校の姿勢

5月、保護者（中2～高3）の皆さまのご協力を得て、長年、本格的に行ってこなかった「学校評価アンケート」（20項目：4段階評価）を実施しました。学校の抱える諸課題を洗い出し「学校改革」に活かしたいとの考えから積極的に行ったものです。

評価結果は想定よりも厳しい結果となりましたが、80%をこえる保護者の皆様からご回答をいただいたことに感謝申し上げます。「学校評価アンケート（保護者）」結果（主として統計的内容）と学校の受け止め、「改善」に向けた決意と対応策についてお知らせします。同時に、回答が遅れましたこととお詫び申し上げます。

なお、回答の詳細につきましては、ホームページに掲載すると共に、さらに生徒による学校評価（7月）や関係者評価（8月）をふまえた内容を、後日報告させていただきます。

## &lt;質問項目&gt;

1. 学校は、教育目標や教育方針を保護者にわかりやすく伝えている。
2. 学校行事は充実している。
3. 授業が充実しており、思考力、判断力、表現力などの力が高まっている。
4. 学校の受験対策の講習や補習は有効である。
5. 学校は、部活動の活性化に向けて適切な支援を行っている。
6. 学校は、タブレットを活用した授業やデジタル教材等、ICT教育に力を入れている。
7. 自習室、ラーニングコモンズルーム、イングリッシュルーム、図書館、実験室などの学習環境は充実している。
8. 保健室、ユールームや食堂等、安全で健康的な生活環境が整っている。
9. コロナ禍での学校の対応は適切であった。
10. 学校は防犯、防災、安全管理対策を適切に行っている。
11. あいさつやマナー等、基本的な生活習慣が身についている。
12. 将来の生き方についてのキャリア教育が充実している。
13. 大学選択に関する情報提供、相談対応など大学受験の支援が充実している。
14. 成績向上のためのアドバイスや受験指導が充実している。
15. 教員は、生徒の学習意欲を引き出す努力をしている。
16. 担任は、親身になって子どもと向き合ってくれている。
17. 教員は、子どもの能力や努力を適切に評価している。
18. 学校の様子や学校からの情報は伝わっている。
19. この1年間で子どもなりに成長したと感じている。
20. 子どもは充実した学校生活を送っている。

項目	評価
1	2.2
2	2.1
3	2.4
4	2.5
5	2.4
6	2.0
7	2.0
8	1.9
9	1.9
10	2.0
11	2.1
12	2.4
13	2.5
14	2.6
15	2.4
16	2.1
17	2.1
18	2.2
19	2.0
20	2.0

## 1 アンケート項目と評点について。

1) アンケート項目と回答：2項目（選択回答、自由記述）について回答を求めました。

- ・上記20項目について、①～④から1つ選択

①そう思う ②ほぼそう思う ③あまりそう思わない ④そう思わない

## 2) 項目別の評点

- ・項目評価は次の通り点数化しました。

①そう思う（1点） ②ほぼそう思う（2点） ③あまりそう思わない（3点） ④そう思わない（4点）

\*評点は、低いほど高評価、高いほど低評価になります。一般に、1.5以下なら「優れている」、2.0以下なら「まずまず良好」。2.5以上なら「課題が山積」ということになります。

### 3) 項目別評価結果

中高の保護者全体としてみた場合、6「ICT教育」7「学習環境」8「安全・健康」9「コロナ対応」19「子どもの成長」20「学校生活の充実」等の項目評価は比較的高い評点になっています。いっぽう、学年やコースによって違いはあるものの、深刻だったのは、3「授業」4「受験対策」5「部活動」12「キャリア教育」13「大学受験支援」14「成績向上」15「学習意欲の引き出し」等、「教育の根幹」にかかわる部分で、2.4～2.6の低い評価になったことです。校長以下、教員も大きなショックを受けると共に、深い省察の必要性を突き付けられました。また、中学と高校で特徴にあまり差がないこと、上級生になるとやや評点が下がる傾向が確認できました。

### 2 教員自身とコアネットによる分析

学校評価アンケートの分析にあたっては、校内の各部署に原因究明と対応策を指示すると共に、コアネット教育総合研究所のアドバイスを得ることにしました。また、コアネットから専門家を招いて研修会を6月・7月に2度実施しました。

コアネットからは、「迅速な保護者への返答と改革の姿勢を示す必要性」、「なりふり構わない改革、早急に成果を上げる必要性」が強調されると共に、「入試実績が上がっていないことが保護者や生徒の「不安」「不信」を招き、低評価につながっているかもしれない」との指摘がありました。

教員間では「教師は善意だが、生徒や保護者の声を受け止めようとしめない姿勢がズレを増幅させている」「学年任せの感が強い。補習も学校として制度化し充実した内容にすべき」「昔通りで、生徒の多様化に対応していないことが問題」などの声があがりました。

いずれにせよ、等閑視は許されず、教員の意識改革と分析に基づく変革と行動が急務と考えます。

### 3 今後の改善策について

学校評価アンケートに関して、現在検討（一部実施）している改善策についてお知らせします。

#### (1) 年度内に企図している改善策

- ・学年の指導をこえた全校的な受験指導（志願書作成、推薦入試指導を含む）制度を導入します。
- ・学校の定期考査等のフォローやアドバイスを丁寧に行うよう工夫して取り組みます。
- ・習熟度による編成や教材の適切性、授業の進度調整について検証します。
- ・理科、社会の学力向上のため、中3実力試験を重視すると共に、宿題テスト等の改善を進めます。
- ・クラブ活動について「活動の計画性」「連絡手段の適切性」「顧問の活動への関わり方や言動」「クラブ内の部則の存在」等について事実確認を行い、必要な改善を進めます。
- ・登下校のマナー、挨拶の奨励に取り組みます。

#### (2) 次年度に改革を図ろうとしている事項

- ・学校評価アンケートを継続実施すると共に、情報公開を進めます。
- ・観点別評価に基づくシラバス（年間授業計画）の改訂を行い、シラバスを公開します。
- ・生徒や保護者とのコミュニケーションの場（各種面談等）を積極的に設ける必要性をふまえ、具体策を検討します。
- ・制度化を図ってきたグローバル教育等に加え、理数教育の重点化を推進し、「理数探究」の導入（新高1～）や理数教育プログラムの拡充を図ります。

本文書は、あくまで「概要」です。自由記述等の質問にしていねいに答えたものではありませんが、より詳しくは、ホームページ及び後日配信予定の生徒による学校評価結果をご参照ください。

## 2022年度 学校評価アンケート報告

### ■ アンケート実施目的と実施概要は以下のものです。

- ・実施目的 在校生保護者の満足度向上
- ・実施期間 2022年5月9日(月)～21日(土)
- ・調査対象 中2から高3の在校生保護者および教員
- ・質問項目 保護者と教員共通質問が20問 別途、教員限定質問6問

### ■ 回答者数・回答率は次のようになりました。

- ・中2：165件 中3：147件 高1：172件 高2：129件 高3：123件 教員：59件
- ・中学の回答率：88% 高校の回答率：78% 教員の回答率：89%

### ■ 各質問について、1から4の選択肢で回答をいただきました。

- ・選択肢は「1 そう思う 2 ほぼそう思う 3 あまりそう思わない 4 そう思わない」であり、「1」が評価の高い項目で、「4」が評価の低い項目となる。
- ・【分析】は、第3者としてコアネット教育総合研究所に分析をお願いし、参考にしている。
- ・自由記述のご意見も参考にさせていただいたが、多岐にわたるため、全ての項目に回答しているわけではないことをご了承いただきたい。

(1) 学校は、教育目標や教育方針を保護者にわかりやすく伝えている。(保護者平均 2.2)					
	1	2	3	4	平均
中学2年	26	78	52	9	2.27
中学3年	26	65	50	6	2.24
高校1年	56	67	35	14	2.04
高校2年	23	58	43	5	2.23
高校3年	27	48	39	9	2.24
教員	11	33	13	2	2.10

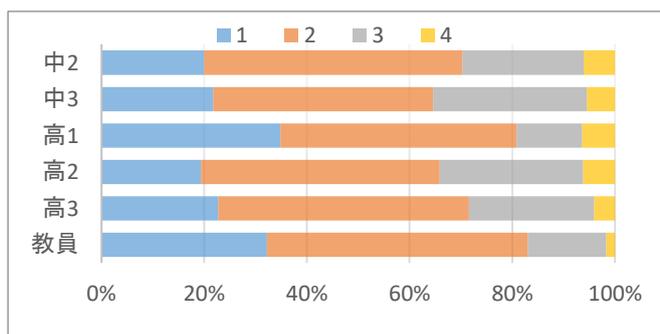
【分析】保護者、教員とも60%の方が評価しているものの、私学教育の根幹である理念に基づく「教育目標」「教育方針」という観点からすると、再確認が必要な数字である。

【回答】年度初めのオリエンテーションやホームルーム、公式行事(始業式や終業式)等の機会を活用し、学校の根幹となる「教育目標」、「教育方針」及び「教育内容」を教員による差を設けずに、生徒に伝えていくよう取り組みます。対外的には、ホームページ等をさらに充実・工夫し、本校の「教育方針」等を周知していきます。

今後も社会から求められる学力等の養成、および受験生や保護者等のニーズに対応すべく様々な学校改革を進めて参りますが、親和の伝統から裏付けされた良さや、生徒第一の視点も大切にしていきたいと思っております。

(2) 学校行事は充実している。(保護者平均 2.1)

	1	2	3	4	平均
中学 2 年	33	83	39	10	2.16
中学 3 年	32	63	44	8	2.19
高校 1 年	60	79	22	11	1.91
高校 2 年	25	60	36	8	2.21
高校 3 年	28	60	30	5	2.10
教員	19	30	9	1	1.86

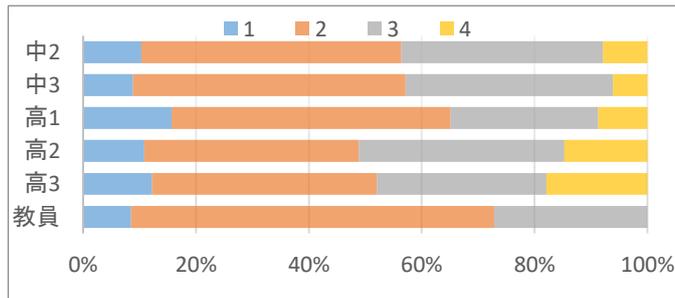


【分析】 コロナ禍の影響で種々の学校行事が中止・延期・縮小され、生徒や保護者が期待する従来の学校行事をあまり経験できない状態で進級したため、保護者の評価が少し低い傾向にある。

【回答】 コロナ禍の影響は今後も続きますが、社会基準の感染対策を十分に行ったうえで、できる限り本来の形式での学校行事の実施を考えております。海外プログラムも、順次再開します。

(3) 授業が充実しており、思考力、判断力、表現力などの力が高まっている。(保護者平均 2.42)

	1	2	3	4	平均
中学 2 年	17	76	59	13	2.41
中学 3 年	13	71	54	9	2.40
高校 1 年	27	85	45	15	2.28
高校 2 年	14	49	47	19	2.55
高校 3 年	15	49	37	22	2.54
教員	5	38	16	0	2.19

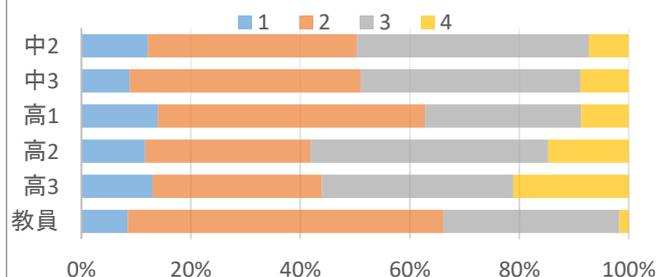


【分析】 大学進学実績が低調であった結果から、保護者や生徒の間に「不安に思う」気持ちが伝播し、不安感として評価が低く出ている傾向が考えられる。特に大学受験に近い高校 3 年、高校 2 年で顕著である。

【回答】 最終的な目標は、大学入学共通テストや大学入試において、個々の希望にあった進路を実現することにあります。年々入学生の指向や学力レベル格差の幅広感が大きくなってきている実情を踏まえ、個々の状況に照らした個別面談や進路相談の実施はもとより、定期考査等のフォローやアドバイスを丁寧に行うよう取り組みます。また、授業についても、習熟度による編成や、教材の適切性、授業の進度調整についても検証していきます。できる限り、すべての生徒の実状に沿った指導体制の構築を目指し、対応策を考えていきます。

(4) 学校の受験対策の講習や補習は有効である。(保護者平均 2.49)

	1	2	3	4	平均
中学 2 年	20	63	70	12	2.45
中学 3 年	13	62	59	13	2.49
高校 1 年	24	84	49	15	2.32
高校 2 年	15	39	56	19	2.61
高校 3 年	16	38	43	26	2.64
教員	5	34	19	1	2.27

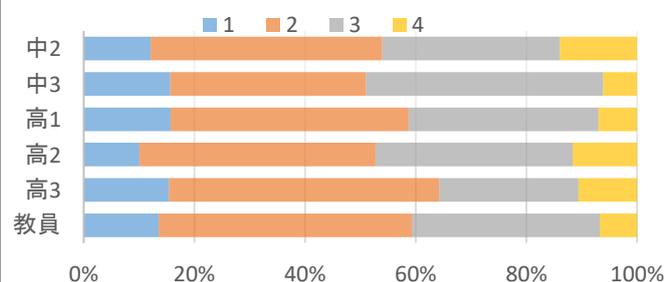


【分析】進学校であるにも関わらず、保護者の評価が低いことは真剣に受け止める必要がある。特に受験を意識している高校 2 年生、3 年生の保護者の評価が低くなっていることは、大変深刻な状況にあり改善が望まれる。

【回答】『補習等のサポートが少ないのではないか』とのご意見も頂きました。昨年度から開講している校内予備校である「ハイレベル講座」や「親和ゼミ」以外にも、本校教員による定期的な補習、長期休暇中の補習を行なっておりますが、保護者の皆様への周知が不十分なところも再認識いたします。また、長期休業中等の時間を活用し、テーマ別や分野別、大学別等の特別対策授業の実施も検討していきます。

(5) 学校は、部活動の活性化に向けて適切な支援を行っている。(保護者平均 2.4)

	1	2	3	4	平均
中学 2 年	20	69	53	23	2.48
中学 3 年	23	52	63	9	2.39
高校 1 年	27	74	59	12	2.33
高校 2 年	13	55	46	15	2.49
高校 3 年	19	60	31	13	2.31
教員	8	27	20	4	2.34

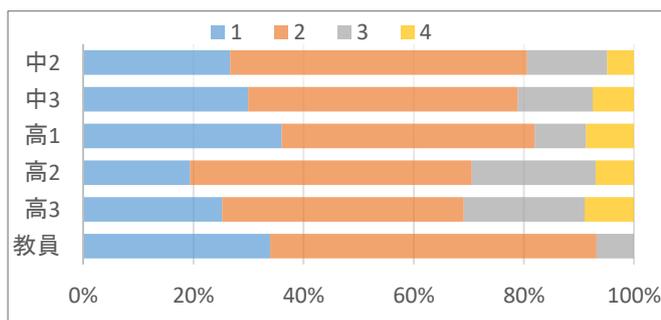


【分析】クラブに加入されている方と未加入の方とでは、全体として受け止め方も異なっていると思われる。記述式の意見の中には、加入されている方についての評価が低い傾向があるように思われる。再度、状況の精査が必要な状況にある。

【回答】意見として指摘されていることの中に、「活動についての計画性」や「連絡手段の適切性」、「顧問の活動への関わり方や言動」、「クラブ間の部則の存在」等について問題があると、厳しい指摘がございました。ご指摘いただいた内容を教員で共有し事実確認を行い、改善に努めていくよう取り組みます

(6) 学校は、タブレットを活用した授業やデジタル教材等、ICT教育に力を入れている。(保護者平均 2.02)

	1	2	3	4	平均
中学2年	44	89	24	8	1.98
中学3年	44	72	20	11	1.99
高校1年	62	79	16	15	1.91
高校2年	25	66	29	9	2.17
高校3年	31	54	27	11	2.15
教員	20	35	4	0	1.73

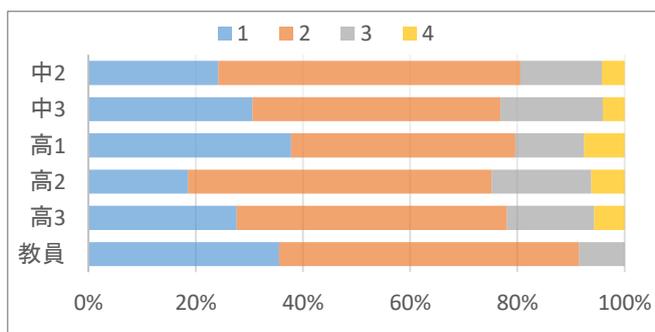


【分析】他校に比べてタブレットを持つ環境が整うのが早かったこともあり、どの学年も概ね良好な評価であった。受験が近い学年（高校2年・3年）での評価が低い傾向がある。

【回答】中学段階と高校段階におけるICT教材の選定や活用方法についての適切性、及びその効果検証する必要がある。

(7) 自習室、ラーニングコモンズルーム、イングリッシュルーム、図書館、実験室などの学習環境は充実している。(保護者平均 1.99)

	1	2	3	4	平均
中学2年	40	93	25	7	1.99
中学3年	45	68	28	6	1.97
高校1年	65	72	22	13	1.90
高校2年	24	73	24	8	2.12
高校3年	34	62	20	7	2.00
教員	21	33	5	0	1.73

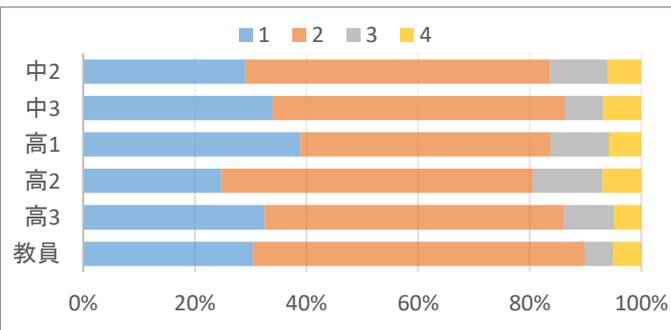


【分析】どの学年も概ね良好な評価であった。

【回答】さらに利用しやすくなるように生徒の意見も取り入れていきたいと思えます。

(8) 保健室、ゆうルームや食堂等、安全で健康的な生活環境が整っている。(保護者平均 1.9)

	1	2	3	4	平均
中学2年	48	90	17	10	1.93
中学3年	50	77	10	10	1.86
高校1年	67	77	18	10	1.83
高校2年	32	72	16	9	2.02
高校3年	40	66	11	6	1.86
教員	18	35	3	3	1.85

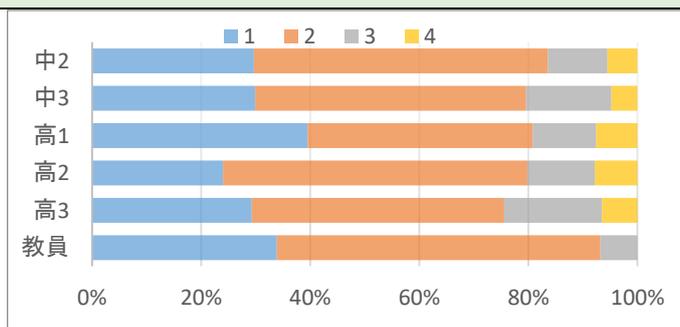


【分析】どの学年も概ね良好な評価であった。

【回答】一部、「利用したいときに利用できない」との意見をいただきました。保健室、ゆうルームの目的にそった運用を基本に考えていきます。保護者のみなさまにおかれましても、ご家庭での体調管理等にご留意いただき、今後も一緒にサポートをお願いします。

(9) コロナ禍での学校の対応は適切であった。(保護者平均 1.95)

	1	2	3	4	平均
中学 2 年	49	89	18	9	1.92
中学 3 年	44	73	23	7	1.95
高校 1 年	68	71	20	13	1.87
高校 2 年	31	72	16	10	2.04
高校 3 年	36	57	22	8	2.02
教員	20	35	4	0	1.73

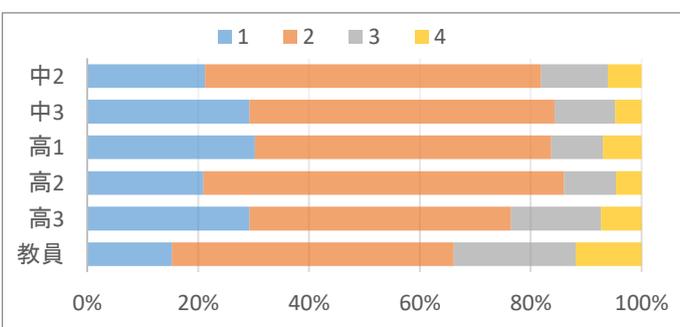


【分析】どの学年も概ね良好な評価であった。

【回答】今後も社会基準を基本とし、感染予防対策を引き続き行ってまいります。

(10) 学校は防犯、防災、安全管理対策を適切に行っている。(保護者平均 1.97)

	1	2	3	4	平均
中学 2 年	35	100	20	10	2.03
中学 3 年	43	81	16	7	1.91
高校 1 年	52	92	16	12	1.93
高校 2 年	27	84	12	6	1.98
高校 3 年	36	58	20	9	2.02
教員	9	30	13	7	2.31

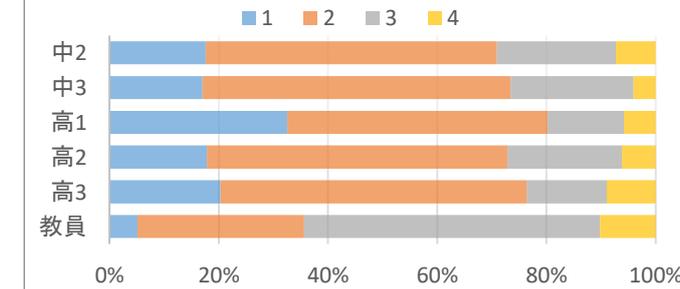


【分析】教員は防犯・防災・学校管理対策について保護者よりも不十分と考えている。

【回答】防災訓練の適性実施、防犯に対する教員の意識づけ、学校設備の安全確認など、さらに徹底して取り組んでまいります。

(11) あいさつやマナー等、基本的な生活習慣が身についている。(保護者平均 2.1)

	1	2	3	4	平均
中学 2 年	29	88	36	12	2.19
中学 3 年	25	83	33	6	2.14
高校 1 年	56	82	24	10	1.93
高校 2 年	23	71	27	8	2.16
高校 3 年	25	69	18	11	2.12
教員	3	18	32	6	2.69

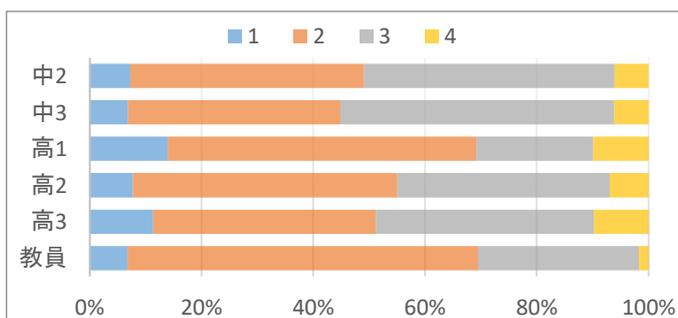


【分析】教員と保護者では評価に差がある。これは判断する対象者が異なり、教員は集団の傾向としてみるため、教員の評価が低くなっていると考えられる。

【回答】『生徒が来訪者に挨拶ができていない』、『先生方も挨拶してくれない』とのご指摘を頂きました。まず、本校の教職員が相互に、また、来客者に対して気持ち良い挨拶を行うこと、同時に生徒への挨拶指導、マナー指導をさらに徹底していきます。

(12) 将来の生き方についてのキャリア教育が充実している。(保護者平均 2.44)

	1	2	3	4	平均
中学 2 年	12	69	74	10	2.50
中学 3 年	10	56	72	9	2.54
高校 1 年	24	95	36	17	2.27
高校 2 年	10	61	49	9	2.44
高校 3 年	14	49	48	12	2.47
教員	4	37	17	1	2.25

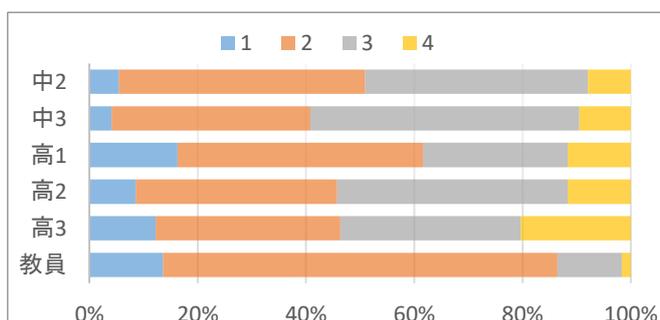


【分析】保護者の評価に低い傾向が見られる。本校のキャリア教育等を見直す必要がある。

【回答】キャリア教育は、将来の進路を考えるために大変重要な進路指導です。中学段階では、将来なりたい自分の気づき、高校段階ではそのために有効な大学等の進学に目を向けるための最適な情報提供や機会を設定することにあります。キャリア教育は、ホームルーム活動や講演会など、各学年に応じて実施していますが、周知されていない面もあるかと思われます。自分の生き方を見つめるキャリア教育のあり方について見直し、道徳やLHRの時間を活用し、強化をはかります。

(13) 大学選択に関する情報提供、相談対応など大学受験の支援が充実している。(保護者平均 2.53)

	1	2	3	4	平均
中学 2 年	9	75	68	13	2.52
中学 3 年	6	54	73	14	2.65
高校 1 年	28	78	46	20	2.34
高校 2 年	11	48	55	15	2.57
高校 3 年	15	42	41	25	2.62
教員	8	43	7	1	2.02

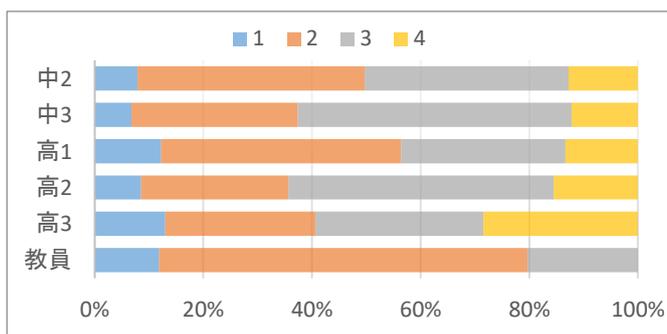


【分析】保護者からの評価は低く、個々人に対応した支援の有効性という点から、早急に検証し、改善する必要がある。

【回答】前項目に関連し、自己の進路選択のために必要な時期に有効な情報が提供できているのかを再検証する必要があります。生徒個々にとっても意識形成に差はありますが、高校段階では、具体的な目標となる大学を決め、必要な学力や見識を身につけることが求められます。担任は生徒の思いや不安に耳を傾け、適切かつ必要な助言と成績への支援を行うことが必要です。一人ひとりの悩みに充分丁寧に対応できていない面があるかと思われますので、低い評価について、その原因を早急に検証し、進路指導部とともに改善に向けた対策を講じ、学校全体で取り組みます。

(14)成績向上のためのアドバイスや受験指導が充実している。(保護者平均 2.61)

	1	2	3	4	平均
中学 2 年	13	69	62	21	2.55
中学 3 年	10	45	74	18	2.68
高校 1 年	21	76	52	23	2.45
高校 2 年	11	35	63	20	2.71
高校 3 年	16	34	38	35	2.75
教員	7	40	12	0	2.08

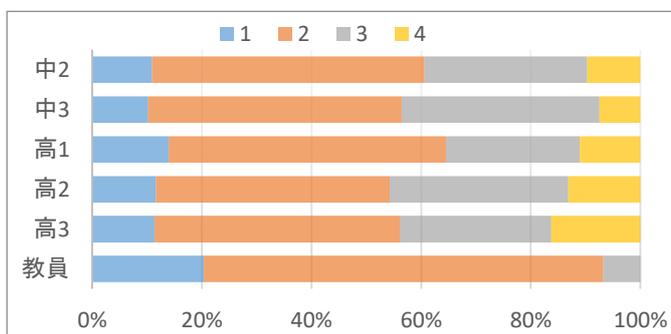


【分析】保護者の評価は低い。個々の生徒に沿った指導やアドバイスの方法を学年・担任まかせにせず、学校全体での取組という点からも検証する必要がある。

【回答】生徒の意見で再度検証は必要ですが、担任と進路についてどの程度密に意見交換ができていくかというところに原因があると思われます。また、担任は、生徒が希望している進路系統や具体的な大学について、どの程度理解し適切なアドバイスができていくかということが問題点として指摘されています。低い評価について、その原因を学年単位で早急に検証し、進路指導部とともに改善に向けた対策を講じます。

(15)教員は、生徒の学習意欲を引き出す努力をしている。(保護者平均 2.41)

	1	2	3	4	平均
中学 2 年	18	82	49	16	2.38
中学 3 年	15	68	53	11	2.41
高校 1 年	24	87	42	19	2.33
高校 2 年	15	55	42	17	2.47
高校 3 年	14	55	34	20	2.49
教員	12	43	4	0	1.86

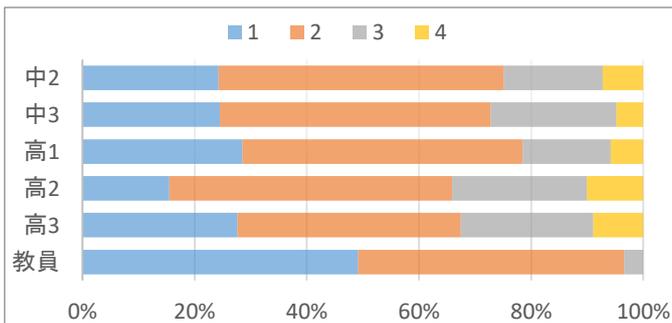


【分析】保護者の評価を真摯に受け止め、個々の生徒の状況に沿った指導を展開する必要がある。

【回答】生徒にとって、わかりやすく成績の伸長が実感できる授業となっているのかを授業評価アンケートのデータも分析し、総合的な検証を行います。授業評価アンケートについては、管理職により、教員ごとに授業改善に向け必要な助言を行います。生徒の学力はすべて均一ではありませんが、生徒個々の状況を担当教員が把握し、適切なフォローを行う必要があります。生徒目線にたった効果的な指導を早急に研究し、改善に向けた対策をとってまいります。

(16) 担任は、親身になって子どもと向き合ってくれている。(保護者平均 2.1)

	1	2	3	4	平均
中学 2 年	40	84	29	12	2.08
中学 3 年	36	71	33	7	2.07
高校 1 年	49	86	27	10	1.99
高校 2 年	20	65	31	13	2.29
高校 3 年	34	49	29	11	2.14
教員	29	28	2	0	1.54

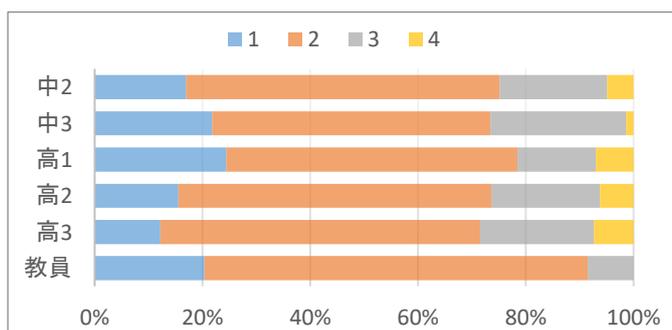


【分析】 教員の高評価と比べると、保護者からはそこまで高く評価されていない。

【回答】 全体的な印象としては、極端に評価が低いとは言えませんが、進路に関する評価が厳しくこの項目についても影響している部分があると思われます。進路に関する部分が改善されることにより、より向上できる余地はあると思います。一部、『言葉使いがや態度が不適切な教員がいる』とのご意見を頂きました。厳正に対応いたしますので、今後ご意見を頂戴できればと存じます。

(17) 教員は、子どもの能力や努力を適切に評価している。(保護者平均 2.12)

	1	2	3	4	平均
中学 2 年	28	96	33	8	2.13
中学 3 年	32	76	37	2	2.06
高校 1 年	42	93	25	12	2.04
高校 2 年	20	75	26	8	2.17
高校 3 年	15	73	26	9	2.24
教員	12	42	5	0	1.88

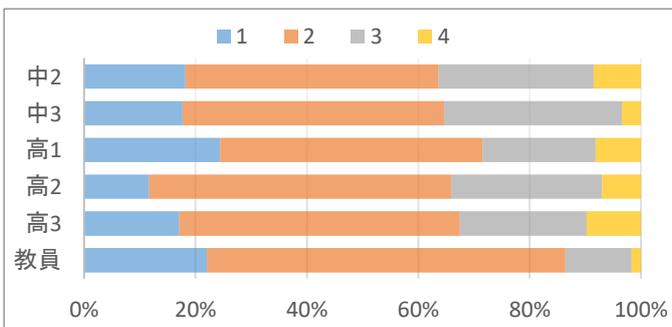


【分析】 どの学年も概ね平均的な評価であるが、さらに高評価を得る必要がある。

【回答】 全体的な印象としては、極端に評価が低いとは言えませんが、進路に関する評価が厳しくこの項目についても影響している部分があると思われます。進路に関する部分が改善されることにより、より向上できる余地はあると思います。

(18) 学校の様子や学校からの情報は伝わっている。(保護者平均 2.22)

	1	2	3	4	平均
中学 2 年	30	75	46	14	2.27
中学 3 年	26	69	47	5	2.21
高校 1 年	42	81	35	14	2.12
高校 2 年	15	70	35	9	2.29
高校 3 年	21	62	28	12	2.25
教員	13	38	7	1	1.93

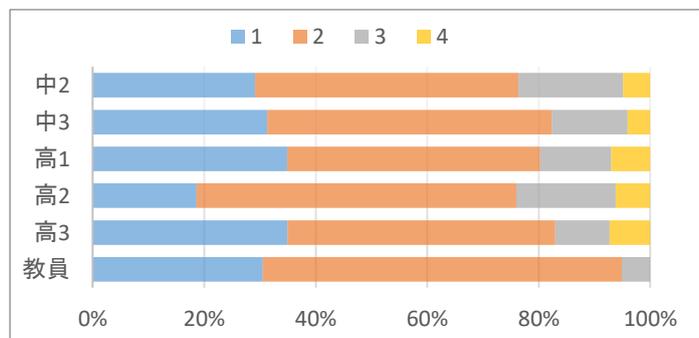


【分析】保護者の評価は高くない。情報を周知する手段の問題も大きいと思われ、必要な改善策をとることが求められる。

【回答】担任との懇談の機会を増やしてほしいとの要望が数多く寄せられています。過去からの慣例により、夏休みに三者または二者面談の機会を設けておりますが、コロナ禍のため過去二年間、参観日等の保護者の皆様に来校して頂く機会が激減してしまったことは否めません。今年度は、学級懇親会も再開し、担任や学年主任と保護者の皆様との意見交換の機会も以前より増えています。また、前項目にもある「キャリア指導の充実」「大学受験支援」「成績向上のアドバイス、受験指導の充実」「子どもとの向き合い」のすべての評価が低いことは、生徒や保護者とのコミュニケーションの場を積極的に設ける必要があることを裏づけています。学校側から生徒や保護者に能動的にコミュニケーションを働きかけることが問われています。中学段階、高校段階、また学年ごとに面談の狙いを定め、相互の意見交換、情報交換の場を設けることで、学校と家庭が一体となって生徒の学校生活を支援していくよう取り組みます。また、学校行事等の諸連絡について、早く正確にお願いしたいとの意見を多数いただきました。学年通信、HP、メール配信の連絡手段も含め要望に応えられるよう改善に努めます。

(19) この1年間で子どもなりに成長したと感じている。(保護者平均 1.96)

	1	2	3	4	平均
中学2年	48	78	31	8	1.99
中学3年	46	75	20	6	1.90
高校1年	60	78	22	12	1.92
高校2年	24	74	23	8	2.12
高校3年	43	59	12	9	1.89
教員	18	38	3	0	1.75

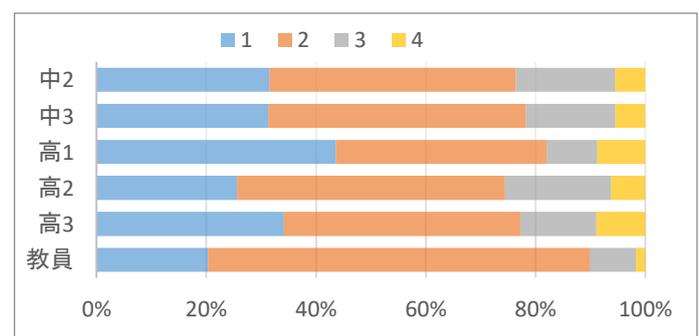


【分析】全体的に概ね良好な評価であった。

【回答】生徒一人ひとりの成長の大きさは異なりますが、生徒の個性や多様性を尊重し、学校という場が生徒にとって大きな成長の場となるよう、さらなる教育支援を行ってまいります。

(20) 子どもは充実した学校生活を送っている。(保護者平均 1.95)

	1	2	3	4	平均
中学2年	52	74	30	9	1.98
中学3年	46	69	24	8	1.96
高校1年	75	66	16	15	1.83
高校2年	33	63	25	8	2.06
高校3年	42	53	17	11	1.98
教員	12	41	5	1	1.92



【分析】全体的に概ね良好な評価であった。

【回答】この数値は、保護者の満足度を表す指標です。学校生活が充実している生徒が多いとみられますが、進路に関する課題が改善されることにより、さらに評価が向上すると思われます。より一層の努力を続けてまいります。

生徒の皆さん

親和中学校 親和女子高等学校  
学校長 中村 晶平

## 「学校評価アンケート(生徒)」結果と改善に向けた学校の姿勢

蝉の声が、賑やかだったクマゼミからいつの間にかツクツクボウシへと移り変わり、朝夕が少し涼しくなりました。新型コロナウイルスの第7波の感染状況は未だ厳しい様子ですが、保護者の皆様、生徒の皆さんのご協力のおかげで2学期を開始できていますことを嬉しく思っています。

さて、生徒の皆さんと保護者の皆様の満足度向上を目的として、5月に保護者対象、7月に生徒対象の学校評価アンケートを実施いたしました。7月に保護者の皆様による学校評価アンケートの回答を速報として報告いたしましたが、この度は生徒の皆さんのアンケート結果がまとまりましたので、それらを報告いたします。

なお、アンケート結果から浮き彫りとなった課題やいただいた自由記述のご意見等については、短期的対応が可能な課題は直ぐにでも対応してまいります。中・長期的な対応が必用な課題は、計画的に実施してまいります。ただ、多額な経費を伴うもの等については、研究を進めてまいります。すぐに改善に取り組むものにつきましては、アンケート結果の後ろに記載しています。ご覧ください。

自由記述のご意見に対する回答も含めて、詳細な回答は別途報告させていただくこととし、取り急ぎ速報といたします。

---

## 2022年度 学校評価アンケート(生徒)報告

■ アンケート実施目的と実施概要は以下のものです。

- ・実施目的 生徒の満足度向上
- ・実施期間 2022年7月9日(土)~19日(火)
- ・調査対象 中1から高3までの生徒全員
- ・質問項目 20問 中学と高校で問い方を変えている質問や保護者アンケートおよび教員アンケートと共通質問もある。

■ 回答者数・回答率は次のようになりました。

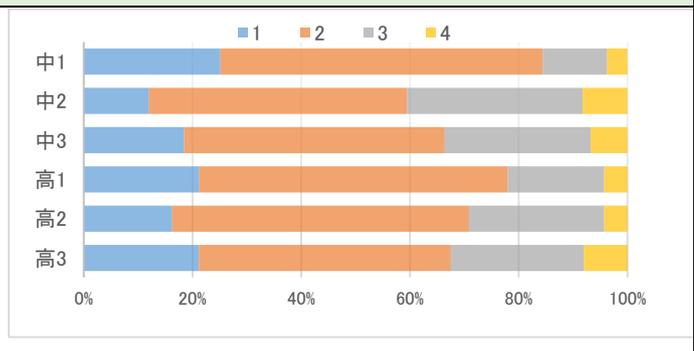
- ・回答者数 中1:135件 中2:158件 中3:119件 高1:141件 高2:141件 高3:151件
- ・回答率 中1:94.4% 中2:85.9% 中3:70.8% 高1:73.8% 高2:79.2% 高3:89.3%

■ 各質問について、1から4の選択肢で回答をいただきました。

- ・選択肢は「1 そう思う 2 ほぼそう思う 3 あまりそう思わない 4 そう思わない」であり、「1」が評価の高い項目で、「4」が評価の低い項目となる。
- ・【分析】は、保護者アンケートとの比較や自由記述の意見を参考にしている。

1. 中学：本校の校訓を意識し行動している。 (中学平均=2.19)  
 高校：本校の教育目標、教育方針を理解している。 (高校平均=2.14)

	1	2	3	4	平均
中学1年	34	80	16	5	1.94
中学2年	19	75	51	13	2.37
中学3年	22	57	32	8	2.22
高校1年	30	80	25	6	2.05
高校2年	23	77	35	6	2.17
高校3年	32	70	37	12	2.19

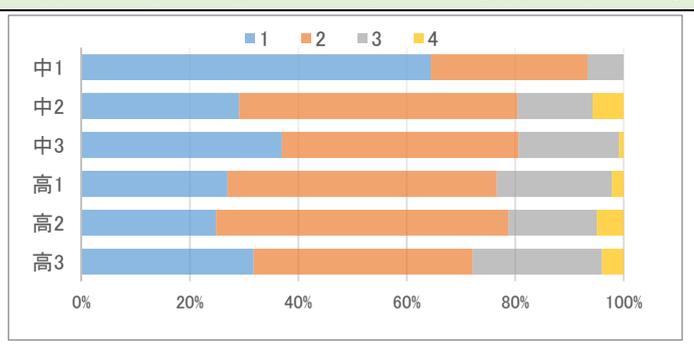


【分析】中学生は「校訓」高校生は「教育目標、教育方針」と少し違う内容で、「行動している」「理解している」という異なる問い方をしているので、単純比較はできないが、中1と高1の評価が比較的高い。ともに入学年であるので生徒の意識が高いことが考えられる。他学年（中2・3、高2・3）の評価はやや低い。学年進行につれて意識が薄れる傾向があるので、意識づけを継続して行うことが必要である。保護者評価（項目1：学校平均2.2）との間に大きな乖離は見られない。

【対策】本校の教育の根幹である「教育目標」「教育方針」の周知徹底は、様々な学校活動・学年活動・学級活動の場面で行っていきますが、さらに丁寧に工夫して、生徒に伝えていく必要があります。

2. 中学：本校の学校行事は充実しており、多様な経験や体験ができる。 (中学平均=1.75)  
 高校：本校の学校行事は充実しており、将来に役立つ経験や体験ができる。 (高校平均=2.00)

	1	2	3	4	平均
中学1年	87	39	9	0	1.42
中学2年	46	81	22	9	1.96
中学3年	44	52	22	1	1.83
高校1年	38	70	30	3	1.99
高校2年	35	76	23	7	2.01
高校3年	48	61	36	6	2.00

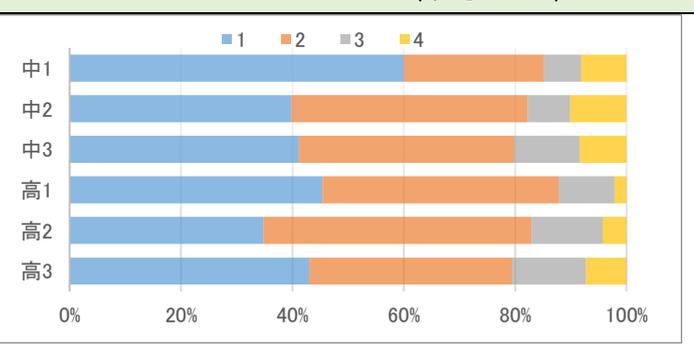


【分析】中学生・高校生ともに全体的な評価はよい。新鮮さもあり特に中学1年生の満足度は高い。高校生は問い方（将来に役立つ経験や体験）の影響もあってやや評価が低くなったと思われる。入学以来、様々な行事で、コロナ禍の影響を受けた中学生の評価が意外と高かった。逆に高校生は、コロナ禍以前の学校行事を経験しているので、やや評価が低くなったと思われる。保護者アンケート（項目2：学校平均（2.1））では、学年による大きな差は見られない。

【対策】コロナ禍の影響は今後も続きますが、できる限り本来の形式での学校行事の実施・再開を計画しています。

3. 学校は部活動に活発に取り組んでいる。 (平均=1.80)

	1	2	3	4	平均
中学1年	81	34	9	11	1.63
中学2年	63	67	12	16	1.88
中学3年	49	46	14	10	1.87
高校1年	64	60	14	3	1.69
高校2年	49	68	18	6	1.87
高校3年	65	55	20	11	1.85

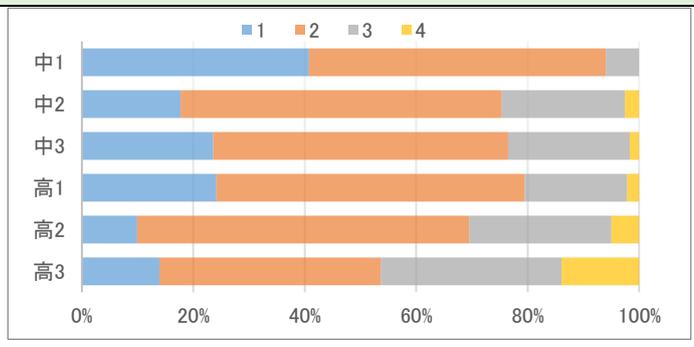


【分析】全学年にわたり、部活動への取り組みについては高い評価である。いっぽう、保護者評価は低く（項目5：学校平均2.4）、生徒評価と異なっている。アンケートの表記が「学校は、部活動の活性化に向けて適切な支援を行っている」という問い方であったので、教員側の部活動への関わりに対する評価として、やや低い傾向になったと思われる。

【対策】保護者アンケートに指摘されていた「活動に対する計画性」「顧問教員の部活動への関わり方」等、改善に向けて対応する必要があると思います。

4. 授業の進度や内容は適切で、進路実現に必要な学力が身につく。 (平均=2.09)

	1	2	3	4	平均
中学1年	55	72	8	0	1.65
中学2年	28	91	35	4	2.09
中学3年	28	63	26	2	2.02
高校1年	34	78	26	3	1.99
高校2年	14	84	36	7	2.26
高校3年	21	60	49	21	2.46

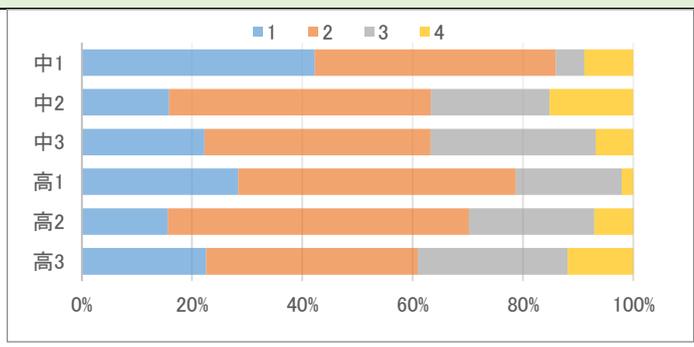


【分析】中1の評価が高い。しかし、高2高3になるにしたがって顕著に低下している。大学受験を意識した回答であることが原因として考えられる。保護者アンケートでも「授業」に関する評価は低い（多くの項目で2.4~2.5）。受験に向けて学力が身につく授業かどうかへの疑問が多くなっていることに加え、大学進学実績の低迷が、生徒・保護者に不安材料を与えていることは否めない。

【対策】大学受験を意識する学年が「学力が身につく」と感じていないことは由々しきことであり、詳細な分析を行うと共に、中学の授業も含め、できる限り生徒の実情に沿った指導体制を構築し、対応策を考え、実行します。

5. 「探究学習」は「思考力・判断力・表現力」が身につく。 (平均=2.14)

	1	2	3	4	平均
中学1年	57	59	7	12	1.81
中学2年	25	75	34	24	2.36
中学3年	26	48	35	8	2.21
高校1年	40	71	27	3	1.95
高校2年	22	77	32	10	2.21
高校3年	34	58	41	18	2.28



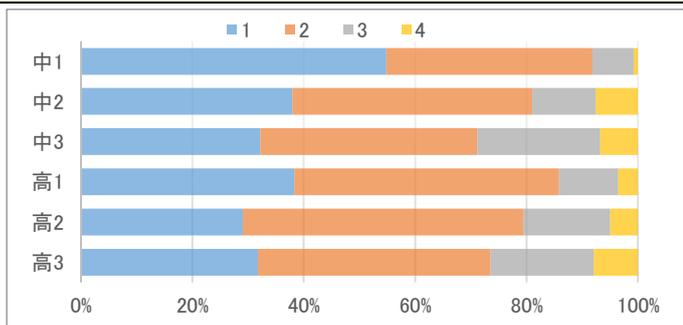
【分析】中1・高1を除いてやや低い評価になっている。他のアンケート結果より低いことから、「思考力・判断力・表現力」が身につくという表記が、一定影響していると思われる。

【対策】中学・高校ともに探究学習にも重点を置いて教育活動を行っていますが、今後はさらに研究を重ね、「思考力・判断力・表現力」の定着が実感できるよう改善を行います。また、総合型選抜入試等大学入試での活用など、生徒にとって有益な活動になるよう努めます。

6. 中学：タブレットや電子機器を使った授業、アプリ学習はわかりやすく力が身につく。(中学平均=1.82)

高校：タブレットや電子機器を使った授業、デジタル教材はわかりやすく進路実現に必要な力が身につく。(高校=1.93)

	1	2	3	4	平均
中学1年	74	50	10	1	1.54
中学2年	60	68	18	12	1.89
中学3年	38	46	26	8	2.03
高校1年	54	67	15	5	1.79
高校2年	41	71	22	7	1.96
高校3年	48	63	28	12	2.03



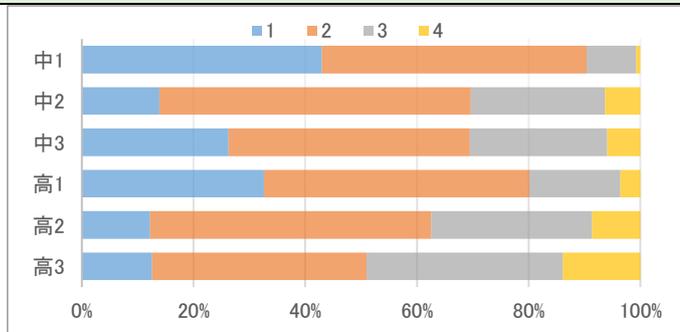
【分析】全学年にわたりやや良好な評価である。特に中1の評価が高い。保護者評価（項目6：学校平均2.0）もほぼ同様の結果であった。

【対策】今後もICT教材の有効な活用方法と、その効果を検証しつつ、改善を図ります。

7. 中学：学習意欲を高める授業が充実している。(中学平均=2.01)

高校：進学対策の講習、学力定着のための補習が充実している。(高校平均=2.26)

	1	2	3	4	平均
中学1年	58	64	12	1	1.67
中学2年	22	88	38	10	2.23
中学3年	31	51	29	7	2.10
高校1年	46	67	23	5	1.91
高校2年	17	70	40	12	2.34
高校3年	19	58	53	21	2.50

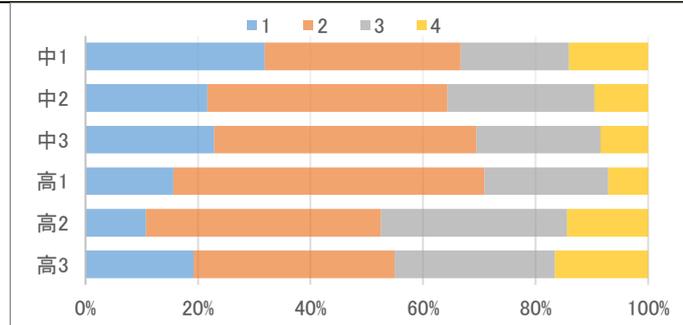


【分析】中1の満足度は高く、高1もやや高いが、学年が上がるにつれて評価が低くなり、大学受験を意識している高2高3の評価が低く、中2もやや低い。高3では「そう思う・ほぼそう思う」の回答が50%程度と顕著に低い。受験を控えている学年の評価が低いことを真摯に受け止め、高校での課題の授業の分析を行い、対策を講じる必要がある。

【対策】進学校である本校において、学習面についての評価が低いことは看過できません。今までも講習、補習は多く実施してきていますが、学校としての制度的実施とできていないことが課題であると受け止めています。進路指導面でも模試データ等を活用し弱点分野対策や大学別の対策等、生徒にとって、さらに有益なものになるように工夫する必要があります。また、ここ数年の大学進学実績の低迷もアンケート結果に一定影響していると思われます。また、生徒の不安を取り除くためにも、中学も含め、授業指導力向上に努めることが必要不可欠と考えます。

8. 適切な量と質の課題・宿題が課されている。(平均=2.29)

	1	2	3	4	平均
中学1年	43	47	26	19	2.16
中学2年	34	67	41	15	2.24
中学3年	27	55	26	10	2.16
高校1年	22	78	31	10	2.21
高校2年	15	58	46	20	2.51
高校3年	29	54	43	25	2.42

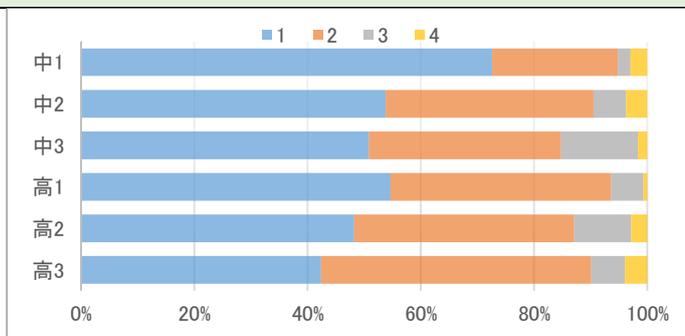


【分析】全般に低い評価であり、高2・高3がさらに低くなっている。自由記述からは、楽をしたいという傾向は読み取れず、「課題」の量が多すぎることで、無計画に出されることへの批判があり、自分の学習ができないとの指摘も散見される。

【対策】無計画な実施については、各教科が連携し、連絡を密にし、課題の量を把握し計画・調整する必要があり、緊急の改善課題と考えます。また、iPadでの課題配信も生徒に過度の負担にならないよう時間制限も含め調整をはかり、計画的実施によって学習効果が上がるように工夫します。

9. 自習室、ラーニングcommons、イングリッシュルーム、図書館など学習環境は整っている。(平均=1.59)

	1	2	3	4	平均
中学1年	98	30	3	4	1.36
中学2年	85	58	9	6	1.59
中学3年	60	40	16	2	1.66
高校1年	77	55	8	1	1.52
高校2年	67	54	14	4	1.68
高校3年	64	72	9	6	1.72

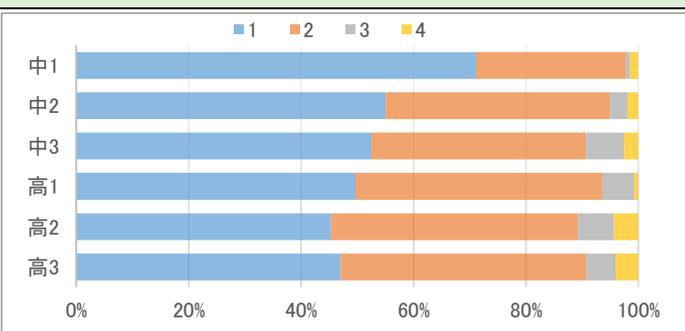


【分析】どの学年も良好な評価であった。

【対策】さらに利用価値が上がるように工夫に努めます。

10. 保健室、ゆうルームや食堂等、安全で健康的な生活のための環境は整っている。(平均=1.56)

	1	2	3	4	平均
中学1年	96	36	1	2	1.33
中学2年	87	63	5	3	1.52
中学3年	62	45	8	3	1.59
高校1年	70	62	8	1	1.57
高校2年	63	61	9	6	1.70
高校3年	71	66	8	6	1.66

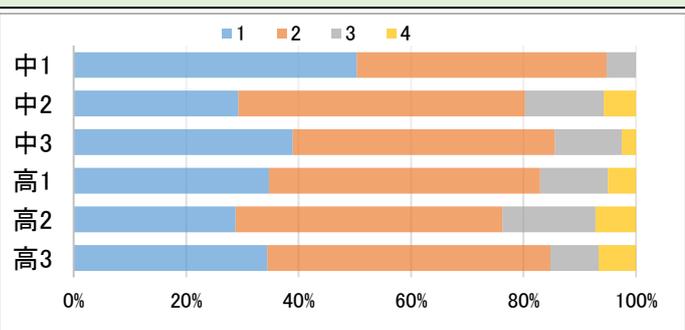


【分析】どの学年も良好な評価であった。

【対策】保護者からの要望も踏まえ、さらに利用しやすい施設になるよう検証します。

11. 学校は防犯、防災、安全管理対策を適切に行っている。(平均=1.85)

	1	2	3	4	平均
中学1年	68	60	7	0	1.55
中学2年	46	80	22	9	1.96
中学3年	46	55	14	3	1.78
高校1年	49	68	17	7	1.87
高校2年	40	66	23	10	2.02
高校3年	52	76	13	10	1.87

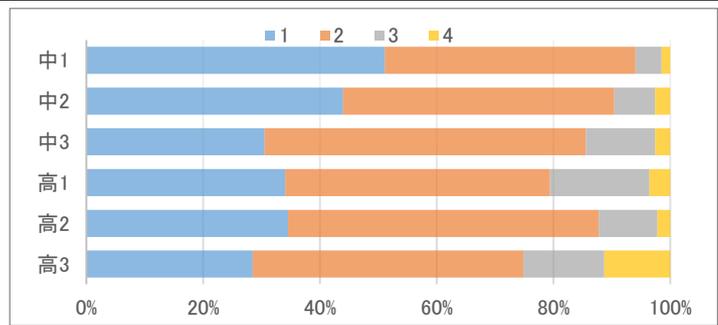


【分析】中1はかなり高く、他の学年も良好な評価であった。

【対策】防災訓練の適切な実施や、防災教育をさらに徹底して行います。

12. あいさつやマナー等、基本的な生活習慣が身についている。 (平均=1.81)

	1	2	3	4	平均
中学 1 年	69	58	6	2	1.56
中学 2 年	69	73	11	4	1.68
中学 3 年	36	65	14	3	1.86
高校 1 年	48	64	24	5	1.90
高校 2 年	48	74	14	3	1.80
高校 3 年	43	70	21	17	2.08

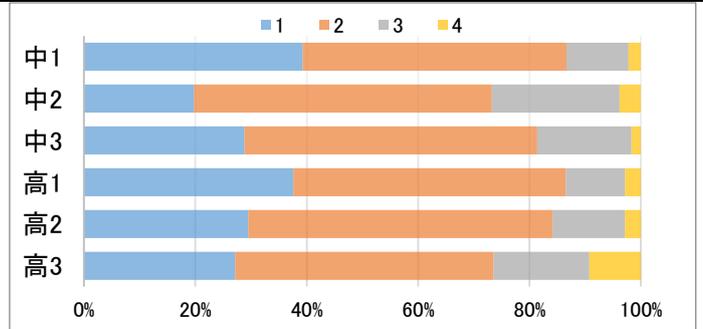


【分析】生徒も評価は全体にやや高めである。保護者評価（項目 11：全体平均 2.1）は生徒よりやや低い。教員による評価（項目 11：全体平均 2.69）は、かなり低い。生徒や保護者が自身のことを評価しているのに対し、教員が集団の傾向としてみるため評価が低いと思われる。

【対策】まず、教職員が相互に、また、生徒に対しても率先して挨拶を行うことを徹底する必要があると思います。保護者からの指摘を踏まえ、さらに評価が高くなるように努めます。

13. 将来の進路選択についての情報提供、指導や相談対応は充実している。 (平均=1.93)

	1	2	3	4	平均
中学 1 年	53	64	15	3	1.76
中学 2 年	31	84	36	6	2.11
中学 3 年	34	62	20	2	1.92
高校 1 年	53	69	15	4	1.79
高校 2 年	41	76	18	4	1.89
高校 3 年	41	70	26	14	2.09

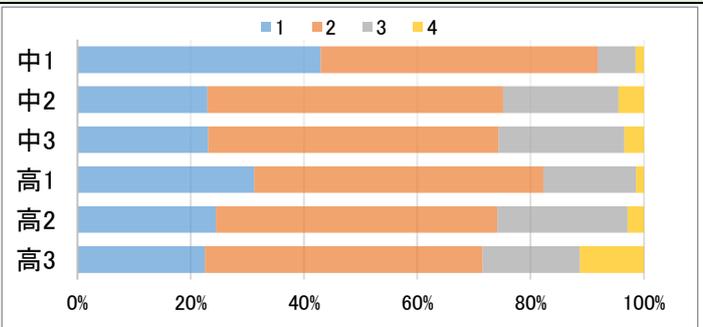


【分析】生徒からの評価結果はまずまずで、中2・中3がやや低い。保護者アンケート結果（項目 13：全体平均 2.5）は非常に低く、差異がみられる。相談の実態が伝わっていないことや、大学進学実績の低迷が影響していると考えられる。教員自身の評価（項目 13：全体平均 2.02）は高い。

【対策】相談体制をオープンにすると共に、学年をこえた相談体制の整備を含め、日頃の教員の指導内容について、どう保護者に伝えているかを検証し、改善する必要がある。

14. 成績向上のためのアドバイス、学習面についての指導や相談対応は充実している。 (平均=1.98)

	1	2	3	4	平均
中学 1 年	58	66	9	2	1.67
中学 2 年	36	82	32	7	2.06
中学 3 年	27	60	26	4	2.06
高校 1 年	44	72	23	2	1.88
高校 2 年	34	69	32	4	2.04
高校 3 年	34	74	26	17	2.17



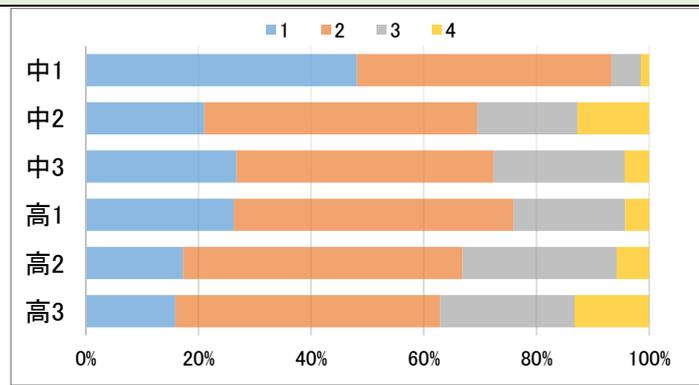
【分析】生徒の評価はまずまずだが、高3がやや低い。高3で学年任せにしない全校的支持体制が必要である。いっぽう、保護者アンケートの結果（項目 14：全校平均 2.6）は非常に低い。効果的な相談に課題があると共に、大学進学実績の低迷が「不安」要因になっていると考えられる。

【対策】相談方法について改善を図ると共に、保護者に対する情報提供に問題がないかを検証し、改善を図ります。

15. 先生は生徒の学習意欲を引き出す努力をしている。

(平均=2.09)

	1	2	3	4	平均
中学1年	65	61	7	2	1.60
中学2年	33	76	28	20	2.22
中学3年	31	53	27	5	2.05
高校1年	37	70	28	6	2.02
高校2年	24	69	38	8	2.22
高校3年	24	71	36	20	2.34



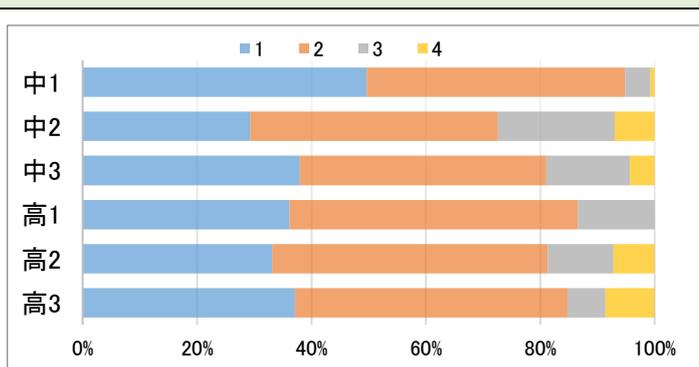
【分析】生徒アンケートの結果は、中2・高2・高3で低い傾向にある。別途実施している授業評価アンケートよりかなり低いため、要因を分析すると共に、主体的な学びについて掘り下げて検討する必要がある。保護者アンケートの結果（項目15:2.4）はさらに低い。いっぽう、教員自身の評価（項目15:全体平均1.86）は高く、保護者の認識とずれがある。

【対策】「授業評価アンケート」のデータを分析し、より良い授業の実施のために検証する必要がある。評価の高い授業を生徒目線、教師目線の両面から検証すると共に、全教員の授業の課題を明確にし、授業改善に向けた対策を取る必要があると考えます。

16. 担任や教科担当は親身になって対応してくれる。

(平均=1.84)

	1	2	3	4	平均
中学1年	67	61	6	1	1.56
中学2年	46	68	32	11	2.05
中学3年	44	50	17	5	1.85
高校1年	51	71	19	0	1.77
高校2年	46	67	16	10	1.93
高校3年	56	72	10	13	1.87



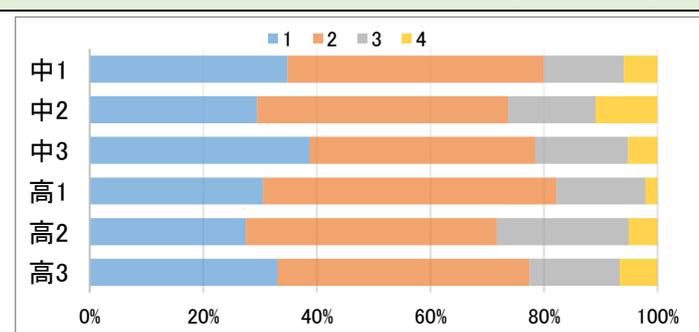
【分析】生徒の評価はまずまずだが、中2でやや低い。

【対策】生徒が相談や質問をしやすい環境・雰囲気作りに努める必要があると考えます。相談は学習面から生活面、進路相談までと多岐にわたっているので、多面的に対応できる教員の研修が必要と考えます。保護者とのコミュニケーションのあり方・取り方にも課題があり、面談のあり方などを見直す必要があると思います。

17. この1年間で自分は成長できた。

(平均=1.97)

	1	2	3	4	平均
中学1年	47	61	19	8	1.91
中学2年	46	69	24	17	2.08
中学3年	45	46	19	6	1.88
高校1年	43	73	22	3	1.89
高校2年	38	61	32	7	2.06
高校3年	50	67	24	10	1.96



【分析】全体にまずまずの評価であった。ただ、20%程度の生徒の評価が低いことは、自己肯定感の点から見ても学校の課題である。

【対策】成長できていないと回答した生徒の状況把握を行い、対策を考える必要があると考えます。

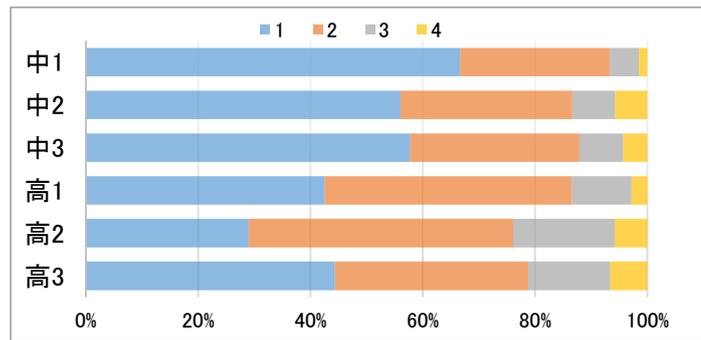
18. 中学：学校生活は楽しく充実している。

(中学平均=1.55)

高校：この学校に入学してよかった。

(高校平均=1.86)

	1	2	3	4	平均
中学1年	90	36	7	2	1.41
中学2年	88	48	12	9	1.63
中学3年	67	35	9	5	1.59
高校1年	60	62	15	4	1.74
高校2年	40	65	25	8	2.01
高校3年	67	52	22	10	1.83

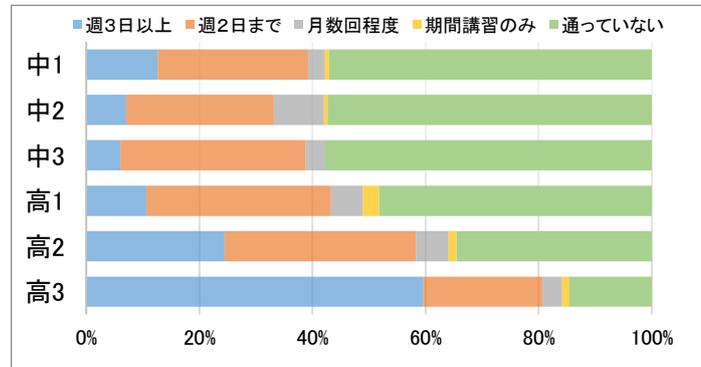


【分析】概ね良好な評価であったが、高2でやや低い傾向が見られる。

【対策】生徒の学校生活での満足度について、低い評価項目の改善をはかることで、さらに満足度を上げていくことが生徒の学校生活と学習の向上に繋がると考え、改善に注力します。

19. 現在、学習塾・予備校に通っていますか。

	週3日以上	週2日まで	月数回程度	期間講習のみ	通っていない
中学1年	17	36	4	1	77
中学2年	11	41	14	1	90
中学3年	7	38	4	0	67
高校1年	15	46	8	4	68
高校2年	34	47	8	2	48
高校3年	90	32	5	2	22

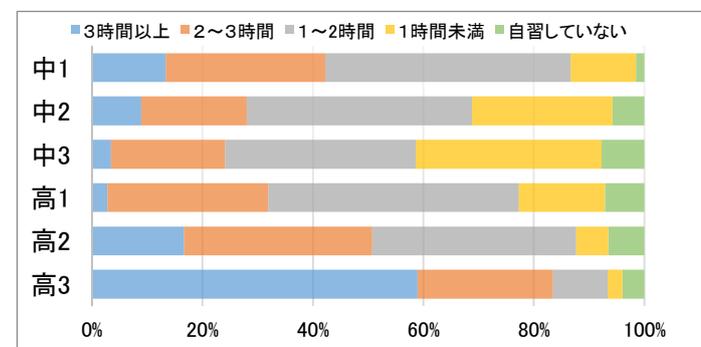


【分析】中学の間は、学校の学習を優先し、学年が上がるにつれて、塾・予備校に通学する生徒が増加している。高3では60%の生徒が週3日以上通塾している。

【対策】通塾の割合は、他校と同様の状況です。学校としては高2高3になって通塾を始めた生徒の生活リズムを注視し、適切なアドバイスをしていきたいと思えます。また、学校の勉強を中心に努力を続けている生徒への対応については、学習面・生活面も含めた進路指導体制を整え、生徒の夢の実現をサポートし、伴走していけるよう、学校全体で取り組んでまいります。

20. 平日、自主学習時間をあなたはどのくらいとっていますか。

	3時間以上	2~3時間	1~2時間	1時間未満	自習しない
中学1年	18	39	60	16	2
中学2年	14	30	64	40	9
中学3年	4	24	40	39	9
高校1年	4	41	64	22	10
高校2年	23	47	51	8	9
高校3年	89	37	15	4	6



【分析】中2から高2での学習時間がかなり少なく、「中だるみ」状態が想像以上に進行している。

【対策】家庭での学習習慣を身につける指導を中学段階から丁寧に行っていききたいと思います。中学受験時に、塾で与えられた勉強に取り組んできた生徒が多いので、教科の特性に応じた学習方法を示し、自主的な勉強に切り替えるサポートをしていきます。また、中2中3での「実力テスト」改革、高校入学時の「意識」改革などの対策を講じていきます。

## 学校評価アンケートを受けて

生徒の皆さんの「選択回答」に対する学校のコメントは前述のとおりですが、「記述回答」も含め、多くの要望や意見が寄せられました。すべての要望や意見に答えることはできませんが、学校としてすぐに改善に取り組んでいこうと考えていることについて、お知らせします。

### (1)「小テストが同日に重なり、取り組みが難しい」

→ 小テストの内容にもよりますが、教員間で日程調整をするなどして、同日での多種類実施をできるだけ避けるように努めます。内容・期日の周知にも工夫しますので、勉強の計画をたてて臨むようにしてください。

### (2)「さまざまな進路相談ができるように、進路相談の先生を増やしてほしい」

→ 「進路お助けカード」制度を準備中です。進路指導部以外の教員も、受験勉強、小論文指導や志望書のアドバイス等を担当します。協力できる学部学科や学問領域をまとめ、整い次第、高校生にロイロノートでお知らせします。皆さんは個々の先生のカードを見て、相談や質問をするようにしてください。

### (3)「課題・宿題が多すぎて、自分のやりたい勉強ができない」

「ロイロノートで夜遅く課題を配信するのは止めてほしい」

→ 教科の特性によって違いはありますが、課題自体は大切なことと思います。しかし、意欲の高い人にとって「自分の勉強にマイナス」になるような逆効果ですので、教員側でも点検し、締め切り時期の調整も含めて改善していこうと思います。

また、ロイロノートでの配信は、質問・課題配信ともに19時までと決めています。教員間でも徹底をはかっています。

### (4)「試験範囲が不明確だったり、ギリギリに発表する先生がいるので改善してほしい」

→ 重要なのは、皆さんの学習環境をより良くして、しっかり取り組んでもらうことです。そのためにも試験範囲の周知は早めに行い、計画的に取り組むことができるようにしていきます。

### (5)「ズボンの制服も可能にして、スカートと選択して着用することを認めてほしい」

→ 親友会からも要望を受けていて、ズボン制服導入の準備を進めています。制服業者・総務部・生徒部で検討を進め、10月始めには皆さんに提案する予定です。

すぐには改善できないまでも、上記以外に「シラバス（年度学習計画）」の公表のように、次年度から改善を考えているものもあります。今回は、学校評価と授業アンケートを同時期に実施しましたので、主に学習面での取り組みについて改善点を示しました。また、引き続き検討してお知らせします。